

## 1P101

## コロナ禍における「健やか子育てガイド」を用いた個別健診の試み

阪下 和美<sup>1</sup>、秋山 千枝子<sup>2</sup>、河野 由美<sup>3</sup>、川崎 浩司<sup>4</sup>、片岡 正<sup>5</sup>、橋本 倫太郎<sup>6</sup>、小枝 達也<sup>7</sup>

<sup>1</sup> 国立成育医療研究センター総合診療部

<sup>2</sup> あきやま子どもクリニック

<sup>3</sup> 自治医科大学付属病院小児科

<sup>4</sup> 玉川医師会小児科医会

<sup>5</sup> 川崎市小児科医会・川崎市医師会

<sup>6</sup> 世田谷区医師会小児科医会

<sup>7</sup> 国立成育医療研究センターこころの診療部

## 【背景】

乳幼児健診は遅延なく該当月齢で実施することが重要だが、新型コロナウイルス感染症の拡大および2020年4月の緊急事態宣言発令に伴い、集団での乳幼児健診は中止または延期を余儀なくされた。一次医療機関での個別健診は感染症流行下でも持続可能な一形式であるが、個別健診では医師が効率的に保健指導を行う必要がある。さらに、コロナ禍で社会的孤立が生じる中、乳幼児と保護者への心身の影響を健診時に評価する必要がある。

## 【目的】

個別健診の形式において、心理社会面の評価および保健指導を行うツールとして、保護者を対象とした質問紙と助言・指導の記載から構成される「健やか子育てガイド」を作成し、その使いやすさや内容の妥当性を検討する。

## 【方法】

2020年9月から12月末までの4か月間、研究班で作成した1歳6か月児健診用および5歳児健診用の「健やか子育てガイド」を利用した個別健診を、それぞれ世田谷区医師会小児科医会と玉川医師会小児科医会（東京都世田谷区の126医療機関）、および川崎市小児科医会（神奈川県川崎市の188医療機関）に依頼した。個別健診実施後に健診担当医師および健診を受けた保護者に事後アンケートを行い、結果を解析した。

## 【結果】

世田谷区小児科医会での1歳6か月児健診では、43医療機関（34%）の協力が得られ、692人に健診が行われた。32名の健診担当医師と332名（48%）の保護者から事後アンケートの回答を得た。川崎市小児科医会での5歳児健診では、71医療機関（38%）の協力が得られ、1268人に健診が行われた。38名の健診担当医師と574名（45%）の保護者から事後アンケートの回答を得た。結果「健やか子育てガイド」を用いた健診に対して、医師および保護者から概ね好評価を得た。保護者からは従来の健診と比べて「本日の健診のほうがよかった（1歳6か月健診34%、5歳健診51%）」「これまでの健診と変わらない（1歳6か月健診60%、5歳健診44%）」と回答を得た。一方で、担当医師からは、記載項目の量や見やすさ等「ガイド」の具体的な改善点や、健診に要する時間負担等の課題が指摘された。

## 【考察】

「健やか子育てガイド」を標準化されたツールとして用いることで、個別健診において、心理社会面の評価および助言・保健指導の質を担保することができる可能性が示唆された。

## 1P102

## 乳児に対するオンライン健診の試み

秋山 千枝子<sup>1</sup>、河野 由美<sup>2</sup>、阪下 和美<sup>3</sup>、小枝 達也<sup>3</sup>

<sup>1</sup> あきやま子どもクリニック

<sup>2</sup> 自治医科大学小児科

<sup>3</sup> 国立成育医療研究センター

## 【目的】

新型コロナウイルス感染症の拡大および2020年4月の緊急事態宣言の発令に伴い、集団での乳幼児健診は中止または延期を余儀なくされた。乳幼児健診は一次医療機関での個別健診が継続されたが、不要不急ではないにも関わらず健診は一時的に減少した。乳幼児健診は、特に乳児には遅延なく該当月齢で実施することが重要である。そこで、乳幼児健診の受診が困難な場合にオンライン健診が活用できるか、またその問題点について検討した。

## 【方法】

当診療所に来院した該当年齢を持つ保護者にオンライン健診への協力を求め、賛同した親子9組（4か月児4名、10か月児5名）を対象とした。医師はあらかじめ決めていた時間に、診療所のパソコンからZOOMを用いて自宅にいる親子を招待した。親子は自宅のスマートフォンやパソコンより入室した。オンライン健診の内容は①身体計測値の確認と評価、②画像と問診によるオンライン診察、③判定と保護者への説明とし、最後にオンライン健診に対するインタビューを行った。

## 【結果】

オンライン健診に要する時間は1組20～30分であった。①身体計測は保護者に事前に説明した計測方法（身長計測アプリについては本学会で河野由美氏が報告）で実施し、身長の誤差は生じていたものの、成長曲線で良好な発育状況を確認できた。②視診（全身状態・皮膚・眼・運動発達）や触診（腹部腫瘍・股関節開排・睾丸触知）の診察は動画と問診を組み合わせで、聴診を要する呼吸には問診で確認できた。③9名中1名（4か月児）に湿疹が「既医療」であったが、その他は「異常なし」であった。④オンライン健診への評価は100点満点中80点以上が8名、50点が1名で、オンライン健診を受診するかに「強く思う」1名、「少し思う」7名、「少し思わない」1名であった。メリットは「出かけなくていい」「子どもの普段の機嫌のよい様子を見てもらえる」、デメリットは「計測が不安」「自分の見立てに自信がない」「見落としがないか」があった。

## 【結論】

オンライン健診に対する保護者の評価はおおむね良好であった。デメリットであった身体計測については計測の機会を増やし常に実測しておくこと、またオンライン健診に保護者に協力をしてもらおう内容に関して、観察する視点を日頃より教示しておく必要がある。